

ICT プログラミング教材保有・支援内容調査ご回答のお願い

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
プログラミング教育委員会 委員長 田中邦裕

かねてより、企業における IT 人材不足は課題とされていますが、第 4 次産業革命といわれる昨今、すべてのサービスが IT を活用する現代では、更なる人材不足が予測されており、2030 年までに IT 人材は約 80 万人不足する、といった経済産業省の調査結果も発表されています。

そのような課題を解決するためにも、未だに根深く残る IT 業界の悪いイメージを払しょくさせ、小中学生をはじめとする子供たちに、業界に興味を持ってもらい、将来の IT 人材としての活躍してほしい、と期待するところです。

既にニュースでも話題となっているように、2020 年から小学校でプログラミング教育が必修化されます。CSAJ プログラミング教育委員会では、2018 年度の活動の一つとして、企業・団体と学校・教育委員会をつなぐ、ハブのような役割を担い、学校現場によりよいプログラミング教育を届け、IT に興味をもってくれる子供たちを増やしていきたいと考えております。

そこで、まずは企業の皆様が、学校・教育委員会・塾などの教育現場に対し、どのような製品・サービス・コンテンツを保有しているのか（予定含む）、各社が子どもや先生に対して、提供可能なコンテンツを募集・調査します。

CSAJ に企業の教育コンテンツを集約させ、そこから学校・教育委員会・塾などの教育現場がどのようなコンテンツを求めているのか、将来的に企業と学校のマッチングの仕組みを構築することが目的です。

それにより、会員企業の皆様のビジネスにもつなげ、教育現場はもちろん将来の IT 人材を担う児童・生徒により良いコンテンツを提供し、IT 業界への興味・関心を持ってもらうことで、将来的な IT 人材不足を解決するための一助となればと思う次第です。

つきましては会員企業の皆様におかれましては、本調査にご協力をお願いしたく、以下の設問をご確認のうえ、ご回答をお願いいたします。

※本調査結果は CSAJ Web サイト等での公開を予定していますのであらかじめご了承ください。但し、具体的なコンテンツ・支援内容（Q7）の掲載方法については、対象者に対し、後日準備が整い次第改めてご連絡させていただきます。

本件に関する問い合わせ・回答票返送先
一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
事務局 担当：若生

TEL : 03-3560-8440 E-mail : gyoumu1@csaj.jp

2. ICT 支援員等人的的支援

派遣可能人数	名 ～ 名
過去経験有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
支援内容：	<input type="checkbox"/> 授業支援 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> その他()
指導例の有無：	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
指導内容：	<input type="checkbox"/> ICT 機器利用指導 <input type="checkbox"/> ICT 活用時の留意点 (リテラシー) <input type="checkbox"/> プログラミング技術 <input type="checkbox"/> 先生に対するプログラミング指導方法
利用可能言語 (小学生向け)	<input type="checkbox"/> Scratch <input type="checkbox"/> Viscuit <input type="checkbox"/> その他()
利用可能言語 (中学・高校生向け)	<input type="checkbox"/> Visual Basic <input type="checkbox"/> C 言語関連 <input type="checkbox"/> Java <input type="checkbox"/> Javascript <input type="checkbox"/> Scala <input type="checkbox"/> PHP <input type="checkbox"/> Python <input type="checkbox"/> Swift <input type="checkbox"/> その他()
連絡事項：	

3. 資金支援

支援金額	
申請方法	
要件	
連絡事項	

4. その他

上記以外に支援可能な事項があれば以下に記載してください。

--

■プログラミング教育に対する課題について

Q8. プログラミング教育が教育機関に対し、より良いカリキュラムとして広まるために、どのような課題があると感じますか？ 貴社が考える主な課題について、3つ以内で選択してください。

- パソコン等の機材
- ネットワーク環境などのインフラ整備
- 技術知識を持つ外部人材の登用
- 学校・教育委員会とのつながり

- 学校の先生への理解・協力
- 学校の先生に対する研修
- 指導内容（カリキュラム）事例
- 国の全面的なバックアップ体制
- 必要な予算確保

Q9 .企業が学校に対し、プログラミング教育等の支援を継続的に実施するため、何が必要だと思えますか？
 (複数選択可)

- 国のバックアップ体制や法整備
- 導入・運営資金
- 教育に必要な機材（機材内容： _____)
- 指導内容（カリキュラム）事例
- 学校とのマッチングの仕組み
- 指導者育成のための研修プログラム
- その他

Q10. 以下に CSAJ プログラミング教育委員会への意見・要請等をご記入願います。

意見・要望等連絡事項

Q11.回答者情報をご記入ください

(※回答者の個人情報には公開いたしません。事務局との連絡窓口としてご記入をお願いします)

企業名			
氏名			
E-mail		TEL	

以上、ご回答ありがとうございます。